



同好會報

●十月例会 十月二十七日午後三時、京都大學物理學教室で例會を開いた。神戸大阪あたりからも集まらるゝ熱心家があり、全出席六十餘名。會員外傍聽二名。山本幹事の紹介にて左の講演があつた。

月蝕について

古川 龍 城氏

講演後、山本幹事は米國よりの最近報によりテンヘル、百濟彗星の誤電事件を報告。それから一同、大學天文臺で月蝕の實地觀測を見學した。

大學では當夜、山本助教指導の下に八名の職員及學生は大小各種の望遠鏡を用つて皆既月蝕の時刻を觀測した。蝕は午後九時二十五分に初虧、同十時二十八分に食既が起つた。靜かな秋の夜空に、聲高く唱へられるクロノメートル(標準時計)の秒数を聞きながら、望遠鏡によつて月面を觀る觀測者等は皆、屏風の緊張して戰つたが、何分にも雲が多いので甚だしく苦戦の體であつた。見學者等は此の特異な狀景を見て一種の嚴肅さを感ぜさせられた。——十一時に至つて空は全く曇つたため觀測は止を得ず打ち切り、一同退散す。

●出張講演 山本幹事は會員棚橋陽吉氏の斡旋により、十一月十五日第三高等學校に於いて同校學生百五十名のために、同好會の名を以つて左の講演をした。

題「金星に關する諸問題」

次で又十一月二十五日山本幹事は同志社大學に出張、會員海老恒治氏の紹介で左の題で宣傳的學術講演を試みた。

題「太陽系の構造」

●宣傳旅行

休日を利用して山本幹事と鹽田氏は十一月二十日から神戸岡山方面に宣傳的講演旅行をやつた。神戸では會員渡邊定助氏萬般の準備斡旋に當られ、二十日午後七時、神戸尋常高等小學校で左のプログラムで行はれた。關日理學士が参加せられたのは吾等の最も愉快とする所であつた。

「金星の語」

幹事理學士 山本 一 濤氏

「天氣豫報について」

理學士 關口 經 吉氏

岡山では熱心なる水野千里氏の斡旋により連日にわたり宣傳運動が催された。大要は

二十一日午後七時、學術講演會、

岡山數學物理學會及同博物學會主催、第六高等學校で開會、左の講演があつた。

「星の物理學」

山本理學士

講演後、同校庭で三吋望遠鏡により若干の天體を觀望した。二十一日午後一時、講話會、

私立吉備商業學校職員生徒八百名のため、左の題で同校講堂に開會。

「天文學の應用方面」

山本理學士

同日午後七時、通俗講演會、岡山市教育會主催、岡山市立商業學校で開會。左の講演があつた。

「天文學と人生」

山本理學士

二十三日午前九時、學術講演會、岡山市教育者のため、同市立商業學校で開會、左の講演があつた。

「太陽系統の概観」

山本理學士

同日午後二時、理科懇談會、

恰も岡山中學校で開かれた物理學校同窓會の招きに應じ、山本理學士は「數學物理學の革命期」と題して現今の科學界を大覽し理學者一般の奮起を叫んだ。

かくて同幹事は二十三日夜半京都に歸着。